

## うすらの 鶺野飛行場へようこそ



## うすらの 鶺野飛行場とは

「鶺野飛行場」は昭和 18（1943）年 10 月、兵庫県加西市（当時は加西郡）の南東部、鶺野台地にパイロットを養成するための「姫路海軍航空隊」が開設されたことに始まります。翌年、川西航空機(株)姫路製作所鶺野工場が併設され、局地戦闘機「紫電」「紫電改」の組み立てがおこなわれました。昭和 20 年には神風特別攻撃隊「白鷺隊」が編成され、沖縄戦のために出撃し、前途有望な若者が大空に散っていきました。鶺野には、終戦までのわずか 2 年に満たない中、青春をかけた多くの若者の姿があったのです。

戦後、地元の人々は総称して「鶺野飛行場」と呼んでおり、現在も長さ 1200 メートルの滑走路跡をはじめ防空壕、対空機銃座など数多くの戦争遺跡が残されている全国でも珍しい場所です。しかし、鶺野に関する資料は終戦直後、そのほとんどが焼却処分され、半世紀もの間、多くの人々の記憶から忘れ去られていました。私共は 25 年以上にわたり、航空隊をはじめ関係者への聞き取り調査や資料収集を地道に重ねた結果、「鶺野飛行場」の全容が明らかになってきました。

終戦から 75 年を超え、当時の記憶は薄れつつあります。今に残る戦争遺跡群をめぐり、史実を学びながら、現在の「平和」とは何かを考えてみましょう。